

使徒言行録 1 章 6-11 節 「イエスの昇天」

4 月 9 日に私たちはイースターをみんなでお祝いいたしました。その後主イエスは弟子たちの前に現れ、弟子たちと 40 日間過ごしました。今日は昇天について皆さんと共に聖書から見ていきたいと思います。ところで、「昇天」とは何でしょうか。日本語で召天とは、天に召される、すなわち亡くなったことを意味します。天に昇ると書く「昇天」は、主イエス・キリストにだけ使います。キリストの昇天とは、体をもって復活し、もはや死ぬことのない新しい命を生きておられる主イエスが、その体のままで天に昇られたということです。

今日の聖書の最初で、弟子たちは主イエスに「イスラエルのために国を建て直して下さるのは、この時ですか」と尋ねています。イスラエルのために国を建て直す、それは旧約聖書に預言されていたメシア、救い主が現れる時に実現すると期待されていた救いです。救い主の出現によって力を盛り返し、外国、敵の支配から脱して自分たちの国を、メシアの王国、神の王国として確立する、そういう救いをイスラエルの民は待ち望んでいたのです。弟子たちは、今こそ主イエスによってその救いが実現するのではないかと期待しています。しかし主イエスは 7 節で、弟子たちの期待を否定します。神様の救いのみ業は、復活がハッピーエンドではなく、あなたがたはこの先もなお道を歩み続けていくのだと言っておられるのです。弟子たちに与えられているこの先の道、それが「使徒」としての生き方でした。使徒とは、「遣わされた者」ということです。弟子たちに与えられた使命とは、主イエスの証人、証し人として生きることです。イスラエルの王国の建設ではなく、主イエスのことを宣べ伝える証人、証し人の群れの成立でした。それこそすなわち教会です。

しかし弟子たちのこの後で確かなことは、主イエスが共におられないということでした。9 節にあるように、弟子たちが見ている前で主が天に上げられたのです。ここに、主イエスの「昇天」が語られています。使徒言行録では、復活された主イエスが、弟子たちに使命を与え、彼らのもとを去り、目に見えない存在になる、ということを語っているのです。

主イエスが去っていく、目に見えない存在になる、それは大変心細い、不安なことです。けれどもそこに、代って与えられるものが聖霊です。天に昇り、主イエスに代って聖霊が弟子たちに降り、与えられた。その聖霊が彼らに力を与え、彼らを全世界へとキリストの証人として遣わしていくのです。私たちは今、この新しいイスラエルである教会に連なり、礼拝を守りつつ歩んでいます。主イエスは復活し、目に見えるお姿をもって弟子たちに出会われました。そして天に上げられた。しかしその主イエスの代りに、今私たちに働いておられるのが、聖霊なる神です。私たちの目に見えない方となられたことは、つまり私たちがどこにいても復活の主と共に歩むことができるということでもあります。また、礼拝を守る者たちすべてと、共にいて下さるのです。私たちは、復活された主イエスの証人として、主イエスのことを証し、宣べ伝えていく力を与えられます。そしてその主イエスがもう一度、目に見えるお姿で来られ、そのご支配があらわになり、私たちの救いが完成することに究極の希望を置いて歩むことができるのです。そのような信仰の生活を私たちに与え、力強く導き、支えて下さる聖霊が、今私たちに働きかけていて下さるのです。復活だけでなく、昇天という更なる希望を与えてくださった神さまと共に歩んでいきましょう。